

会 議 記 録			
会議の名称	環境市民厚生常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 小野
日 時	令和5年11月15日（水曜日）	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 2 時 59 分
出席委員	◎大塚 ○富谷 大西 大石 土岐 梅本 平本 西口		
理事者出席者	【市民生活部】森川部長 [保険医療課] 吉田課長、下西国保料係長 【こども未来部】中川部長 [子育て支援課] 西村子どもファースト推進係長 [保育課] 原田課長、中井保育所担当課長、橋本保育政策係長、谷保育幼稚園係長 【市立病院】土岐部長 [病院総務課] 吉村課長 [医事課] 松野課長 [経営企画室] 竹内室長		
事務局	加藤副課長兼議事調査係長事務取扱、小野主任		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 1名	議員2名（林、木村）

## 会 議 の 概 要

### 1 開 議

### 2 行政報告

[理事者入室] 市立病院

#### (1) 人間ドック 検査項目数値の誤りについて

<病院事業管理者>

(あいさつ)

<経営企画室長>

(資料に基づき説明)

～ 13:34

[質疑]

<梅本委員>

システムの変更を行う際、変更管理の手順などに基づいてチェックされると思うが、手順などに沿って適切に作業を進められていたのか。

<経営企画室長>

委員ご指摘のとおり、データの移行状況を確認し検証する手順になっているが、今回はヒューマンエラーにより、チェックできていなかったことが原因である。

<梅本委員>

今後、検査データ全体の精度管理の徹底を図るという部分と、システムの変更管理が正しく行われていなかったという部分に対して対策を行うべきであると思うが、提案された内容ではその部分についての要素が少ないと感じるがどうか。

<経営企画室長>

そのとおりだと思う。

<梅本委員>

この部分について、もう少し詳しく説明していただくか、後で追加資料をいただけないか。

<管理部長>

今いただいた意見やこれまでの経過を含め、資料を作成し報告させていただきます。

<梅本委員>

検証した内容を共有するとのことであったが、誰と情報を共有されるのか。

<経営企画室長>

今回の件については、原因の追及から今後の対策までを市立病院内で協議しており、院内の全部署で情報が共有できていると考えている。

<大石委員>

原因は、委託業者が変わり、その委託業者に合ったシステムへ移行する過程で設定の変更ができていなかったということか。それであれば、今回、基幹的な部分が修正されたため、今後は問題なくこのシステムを運用できるのか。

<経営企画室長>

問題なく運用できる。

<大石委員>

それであれば、資料でも同様に再度このような事象を発生させないよう徹底する旨を記載していただきたい。

<平本委員>

資料に、誤った数値が入力されていることが判明したと記載されているが、誰が気づいたのか。

<経営企画室長>

今回は患者からではなく、院内で医師が健診結果についてコメントをつける際に発見した。

<大西委員>

個別に電話で対応したとのことであったが、対象者のうち個別に対応した件数と具体的な内容は。

<経営企画室長>

全員に電話し、経過と新たな結果報告書を再送することを説明した。

<平本委員>

どのような項目に誤りがあったのか。

<経営企画室長>

血清蛋白分画という項目であるが、これは従来5分画という5つの分類で検査されるものであったが、2～3年前から、より精密な6分画という検査が

出てきた。国内で6分面の検査を行っているケースは少なく、前回委託していた検査センターでは5分面で検査を行っていた。しかし、新しい検査センターでは6分画となっており、この部分を見落とし、設定が漏れてしまった。

<平本委員>

今回のシステム改修では、検査項目を細分化したシステムに移行したということか。

<経営企画室長>

そのとおりである。

<西口委員>

医療において信用とは最も重要なものであり、今回のことは重大な問題である。市民の信頼回復することは難しいと考えるがどうか。

<経営企画室長>

委員ご指摘のとおり、信頼を回復することは大変難しいと考えており、院内で改めて協議し取組を進めていきたい。

<西口委員>

チェックを行う際は、自分の目で確かめるという気持ちが大切であるが、説明を聞いている限り、そのような認識があるように感じられない。今後、二度とこのようなことが起こらないように、二重三重のチェックが行える体制を整備していただきたい。

<管理部長>

本日の意見を持ち帰り、管理者から医療機関は患者の命や健康を預かる場所であることを改めて指導していただき、今回のようなことが起こらないようチェック体制の整備について協議していきたい。

[理事者退室] 市立病院

[理事者入室] こども未来部

(1)「木育ひろばKIRI no KO (きりのこ)」及び  
「ギャラリーあそびの森かめまるランド」の利用状況について

<こども未来部長>

(あいさつ)

<子育て支援課長>

(資料に基づき説明)

～14:04

[質疑]

<土岐委員>

現在の利用人数であれば、運営を続けていけるのか。

<子育て支援課長>

現在の利用人数及び収支は、当初の見込みを上回っており、現在の状況を維持できるのであれば、運営を続けていくことはできると考えている。

<大石委員>

市内と市外の利用者の割合は。

<子育て支援課長>

入場時に市内・市外の区分を行っていないため、事業者のアンケートによる情報であるが、平日と休日を合わせた割合は、亀岡市民が24パーセント、市外在住者が76パーセントである。平日は亀岡市民と市外在住者が同数程度である。

<平本委員>

アンケート調査と合わせてニーズ調査を行ってはどうか。

<子育て支援課長>

委員ご指摘のとおり、ニーズ調査ができないか事業者と検討したい。

<平本委員>

以前、委員会の中で、休日も市民が利用しやすくなるような割引券などを検討できないかという意見があったが、その後の状況はどうか。

<子育て支援課長>

事業者と1年間の状況を見ながら検討したいと考えている。一方で、日曜日は入場制限がかかるくらい人気があるため、現在の状況のままで割引券などを作成すると、余計に入場制限がかかってしまうと予想されるため、そのようなことも含めて協議していきたい。

<西口委員>

利用者のニーズとして、どのようなものが人気なのか。

<子育て支援課長>

事業者からは、そり立つ壁や立体遊具が人気であると聞いている。

<平本委員>

入場制限で利用できなかった方に対して、近くにある施設などを案内しているのか。

<子育て支援課長>

入場制限がある間は、かめきたサンガ広場や近隣の公園などを案内している。他にもいろいろな施設があるため、そのようなものが案内できないか事業者に伝えたい。

<富谷副委員長>

平日無料券の使用数は。

<子育て支援課長>

5月8日から10月末までで2,378枚である。

<富谷副委員長>

無料券の配布対象者数は。

<子育て支援課長>

約3,500人である。現在申請されているのは、約3分の1である。

<梅本委員>

障がい者の利用を増やしていくために検討していることはあるか。

<子育て支援課長>

現時点で具体的に障がい者の利用を増やすために検討していることはない

が、障がいがある方も利用しやすい環境づくりについて、事業者と相談していきたい。

## (2) 就学前施設の再編整備等に係る例規整備について

<保育課長>

(資料に基づき説明)

～14:34

[質疑]

<大石委員>

認定こども園に移行すると保護者視点では、どのような変化があるのか。

<保育課長>

保護者が働いているかどうかに関わらず、子どもを預けることができ、教育・保育を一体的に実施することができるようになる。

<土岐委員>

多様なニーズに応え、様々な取組を行うことは素晴らしいことである。一方で、それに伴い保育士の確保が大きな課題になると思うが、どのような取組を行っているのか。

<保育課長>

保育士の増員に向け、令和6年度と令和7年度で計画的に職員を採用する方向で協議している。

[理事者退室] こども未来部

[理事者入室] 市民生活部

## (1) 亀岡市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

<市民生活部長>

(あいさつ)

<保険医療課長>

(資料に基づき説明)

～14:51

[質疑]

<大西委員>

減額された所得割と均等割の保険料の額のうち、2分の1を国、京都府と亀岡市がそれぞれ4分の1を負担するとのことであったが、亀岡市負担分の財源は。

<保険医療課長>

一般会計からの繰り入れである。

<大西委員>

この制度を利用するためには申請が必要なのか。

<保険医療課長>

そのとおりである。

<大西委員>

申請漏れがなくすためにどのような工夫を行うのか。

<保険医療課長>

ホームページや広報誌、案内チラシ、ポスターで周知を行う。また、出産後に出産育児一時金の申請に来られるため、減免の申請ができていない方の場合は、そこで気付けるため、その際に徹底して案内していきたいと考えている。

[理事者退室] 市民生活部

<大塚委員長>

今回は、12月12日（火）午前10時から議案審査を行う。

散会 ～14:59